

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNO.

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名		B-No.2		調査位置		北緯		36° 59' 38.4900"			
発注機関		栃木県 大田原土木事務所		調査期間		2008-12-11 ~ 2008-12-12		東経		140° 09' 28.9000"	
調査業者名				主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高		263.12 m		角		180° 上 90° 下 0° 0.00°		方		北 0° 270° 西 180° 東 90° 南	
総掘進長		6.00 m		地盤勾配		鉛直 0° 0.00°		使用機種		試錐機	
								エンジン		ハンマー落下用具	
										ポンプ	

標尺	層高	深度	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内掘進				
(m)	(m)	(m)	(m)								深度 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	深度 (m)	試験名および結果	深度 (m)	試験番号	採取方法	内試験	進月日	
												0 10 20	10 20 30	0 10 20 30 40 50							
1				表土 (SF)	黒褐色			最上部0.05m間、有機質火山灰土。以深は軟質な隙混り粘土から成り、礫はφ5~20mmの岩片を主体に局所ではφ40~60mm程を混入する。			1.15	2	1	1	4	30	4				
2					暗茶褐			層はやや不均質で、近傍、石積ブロック施工時の人為的作用が推定される。GL-1.8m付近より、礫分の含有割合が低く、礫径はφ5mm内外が主となる。			1.45						2				
3	260.42	2.70	2.70					GL-3.25mまでは風化・変質により、コアは固結砂状で採取される。			2.15	1	1	2	15	15	30				
4				溶結凝灰岩 (Wtf)				以深、概ね新鮮となり、長さ20~50cm程の棒状コアを主体とする。亀裂は密着したヘアーラックであり、開口性のものは無い。風化・変質は割れ目沿いに脱色が見られる程度である。			2.45						>50				12/11
5					暗灰			稀にφ5~10mm程度の火山礫が認められる。			3.15	11	39	50	20						
6	257.12	3.30	6.00								3.35	50	0	50	0						
											4.00	50	0	50	0						
											4.00	50	0	50	0						
											5.00	50	0	50	0						
											5.00	50	0	50	0						
											6.00	50	0	50	0						12/12
											6.00	50	0	50	0						